

観覧料(税込)	当日	前売・団体
一 般	1,800円	1,600円
大高生	1,400円	1,200円
中小生	500円	300円

※団体は15名様以上。※障がい者手帳をお持ちの方は、美術館チケットカウンターで購入されたご本人と付き添いの方1名様まで当日料金の半額。※【大阪市立美術館との相互割引】本展と特別展「円山応挙 リアルの先へ 空間革命」2027年2月6日(土)～4月4日(日)の当日券をそれぞれ100円引きでご購入いただけます。各館の券売窓口で観覧券(半券可)をご提示ください(1枚につきお一人様1回限り有効、他の割引との併用不可)。

○チケット販売場所

あべのハルカス美術館ミュージアムショップ(美術館開館日のみ)、あべのハルカス美術館ホームページ(オンラインチケット)、近鉄駅営業所、ABCびあ、チケットびあ、ローソンチケット、イーブラス、CNプレイガイド、セブンチケットなど。※チケット購入の際、プレイガイドによって各種手数料が発生する場合がございます。

■お得な前売りセット券(税込)

ペア券(一般2枚組) 3,000円

※お一人で2回に分けてのご使用も可能です。※ABCびあ、チケットびあ、ローソンチケット、イーブラス、CNプレイガイド、セブンチケットで販売

限定500セット ローソンチケット限定販売

大阪会場限定! トートバッグセット券 2,800円

本展観覧券(一般)とトートバッグ(大阪限定カラー)がセットになったお得なチケットです。

※本展観覧券とグッズ引換券が別々に発券されます。
グッズは会期中に美術館ミュージアムショップでお引換ください。

※本グッズは数量限定製作のため、チケットが完売した場合、ミュージアムショップでの取り扱いはありません。



※画像はイメージです。

限定40セット ABCびあ、チケットびあ限定販売

ワークショップセット券 4,500円

本展観覧券(一般)と「ルーシー・リーの制作技法を体験するワークショップ」参加券がセットになったスペシャルチケットです。

[講師] 佐藤典克氏(陶芸家・日本工芸会正会員)

[日時] 2027年1月23日(土) ①10:30～②14:00～(各とも約90分)

[会場] あべのハルカス23階 ハルカス大学セミナールーム

[定員] 各回20名

※本展観覧券と陶芸ワークショップ参加券が別々に発券されます。

※作品は、後日美術館にてお渡しいたします(着払いでの発送も可能)。

各種前売券販売期間: 2026年10月3日(土)～12月25日(金)

■イベント情報 ハルカス大学連携 美術講座

「はじめまして、ルーシー・リー」

本展担当学芸員が、展覧会の構成や作品の見どころをご紹介します。

[講師] 横山志野(あべのハルカス美術館学芸員)

[日時] 2027年1月16日(土) 14:00～15:00 (13:30開場・受付開始)

[会場] あべのハルカス23階 ハルカス大学セミナールーム

[定員] 70名(事前申込制、先着順)

申込期間 11月17日(火) 10:00～定員に達し次第終了

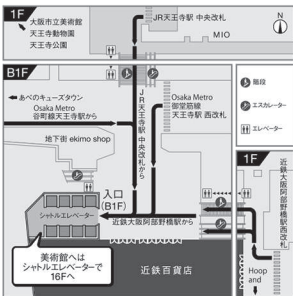
申込方法 ハルカス大学WEBサイト <https://harudai.jp/>

※聴講は無料ですが、本展観覧券(半券可)が必要です。

※お申し込みは、お電話(06-4703-3034)、ハルカス大学受付(あべのハルカス23階 キャンパスフロア)でも承ります。



企画チケットやイベントの詳細など、
最新の情報は美術館公式HPにてお知らせいたします。



アクセス

近鉄「大阪阿部野橋駅」、JR・Osaka Metro「天王寺駅」、阪堺上町線「天王寺駅駅前」下車すぐ。

あべのハルカス美術館
ABENO HARUKAS ART MUSEUM

〒545-6016 大阪市阿倍野区阿倍野筋1-1-43 あべのハルカス16階

お問い合わせ | 06-4399-9050

美術館公式HP | <https://www.aham.jp/>



あべのハルカス美術館
ABENO HARUKAS ART MUSEUM

Elegant Vessels Fusing East and West



うつわに込めた
静かな美学、

10年ぶりの回顧展

[休館日] 12月31日(木)、1月1日(金・祝)

[開館時間]

火～金／10:00～20:00

月・土日祝／10:00～18:00

※入館は閉館30分前まで

[主催] あべのハルカス美術館、
朝日新聞社、朝日放送テレビ

[企画協力] 国立工芸館

[特別協力] 井内コレクション、
京都国立近代美術館

[協賛] DNP大日本印刷

2026—2027年

12月26日[土]—
3月7日[日]

ルーシー・リー 《ブロンズ軸花器》

1980年頃 井内コレクション(国立工芸館寄託) 撮影:品野晃

東西をつなぐ優美のうつわ

ルーシー・リー 展



しなやかさの中にある凛とした強さ、
ルーシー・リーがたどり着いた
揺るぎないスタイル。



7



8

20世紀を代表する陶芸家ルーシー・リーは、
1902年オーストリアのウィーンに生まれました。
ウィーン工芸美術学校で轆轤^{ろくろ}の面白さに魅了され、
陶芸の道へと進んだ彼女は、
国際的な展覧会で数々の賞を受賞しながら
作家としての地位を確立していきます。

しかし、迫りくる戦争は彼女の作陶にも影を落とします。
1938年、亡命を余儀なくされたルーシー・リーは、
活動の場をイギリスへと移し、以後およそ半世紀にわたりロンドンの地で制作を続けました。
しなやかさと緊張感を併せ持つフォルム、色鮮やかな釉薬のバリエーション、掻き落としや象嵌^{ぞうがん}による味わい深い表現。
彼女の尽きない探究心から生まれた作品の数々は、ロンドンでの活動続けるなかで洗練^{せうれん}を極めます。
その静かな美学は、凛とした佇まい^{たたまい}のうつわ一つひとつに、揺るぎなく宿っているのです。

本展は、今もなお人々を魅了してやまないルーシー・リーの作陶の軌跡を、
それぞれの地で出会った人やもの、時代背景、さらに日本を中心とした東洋との関わりを交えながらご紹介します。
バーナード・リーチやハンス・コパー、濱田庄司など交流のあった作家の作品も併せて展示し、
彼女が当時の思潮から何を学び、自身のスタイルへと昇華したのかを紐解きながら、造形の源泉や作品に込められた信念に迫る展覧会です。

Elegant Vessels Fusing East and West

初期から円熟期までの作品を一堂に。



6



1



2



3



4



5

- 1 《鉢》 1926年頃 個人蔵 撮影:野村知也
- 2 《ピンク象嵌小鉢》 1975-79年頃 国立工芸館蔵 撮影:エス・アンド・ティ フォト
- 3 《壺》 1965年頃 京都国立近代美術館蔵
- 4 《白軸筒文花瓶》 1976年頃 国立工芸館蔵 撮影:品野 晃
- 5 《マンガン軸線文碗》 1970年頃 国立工芸館蔵 撮影:アローアートワークス
- 6 《ボタン》(一部) 1940-50年代 公益財団法人岡田文化財団パタミュージアム蔵
- 7 《白軸ピンク線文鉢》 1984年頃 井内コレクション(国立工芸館寄託) 撮影:野村知也
- 8 《青軸鉢》(部分) 1980年頃 井内コレクション(国立工芸館寄託) 撮影:品野 晃
- 9 《緑軸鉢》(部分) 1980年頃 井内コレクション(国立工芸館寄託) 撮影:品野 晃

※すべてルーシー・リーの作品

Lucie Rie